藥劑分類	藥劑名	調合量 メートル法	調合量 慣行量	調製法	使用法及注意	混用可なるもの
殺菌劑	石灰乳	生石灰 二瓩 水 一〇立	一、〇〇〇匁 一斗	ボルドウ液調製の際に準ずべし。樹幹の塗付劑として石灰乳一斗に對し食鹽五〇匁、カゼイン石灰二五匁位を加ふ。	土壤並に樹病根部の消毒並に樹幹塗付等に用ふ。消毒せる土は兩三日後苗を移植す。植木苗木（休眠期）塊莖根類病害には三〇分—一時間位浸漬消毒す。	砒酸鉛、砒酸石灰、食鹽（塗付用）
殺菌劑	石灰硫黄合劑	稀薄式 硫黄粉 二五〇瓦 生石灰 二〇〇瓦 水 一〇立 濃厚式 硫黄粉 二、五瓩 生石灰 一、三瓩 水 一〇立	一三〇匁 一〇〇匁 一斗 一、三〇〇匁 六〇〇匁 一斗	釜又は石油罐を用意し、硫黄粉末を入れ少量の湯を加へて攪きまぜ、之に生石灰を投じてよく消化せしめ、稀薄式の場合は三分の一量の湯を加へ、濃厚式の場合は全量を加へて攪拌しつゝ一時間位煮沸す。浮游せる硫黄が全部溶解して褐赫色澄液を汲み取るべし。前者の場合には更に煮沸してつゝ所定量とし、攪拌しながら浮游物も共に撒布す。稀薄式は比重ボーメ四度内外の場合には三十度内外の原液を得べし。	冬期は普通式は其儘濃厚原液は四—五度位に稀釋して用ふ。五—六月の介殼蟲に對しては四—五度液を用ひ又姫梟蟲に對しては砒酸鉛を混用す。生育期間に於けるダニ類の驅除には〇・一—〇・二度の稀釋液（原液ならば二〇〇—三〇〇倍位）を二—三回充分強力噴霧器にて撒布すべし。	煙草粉、硫酸ニコチン、砒酸鉛、砒酸石灰

藥劑		調合量 メートル法	調合量 慣行量	調製法	使用法及注意	混用可なるもの
蟲觸劑	機械油乳劑	機械油（マシン油） 二立 石鹸 一九〇瓦 水 二立	一升 四〇匁 一升	石油空罐二個を用意し、一方石鹸を水に煮沸溶解し、之に機械油を注入し、直ちに或は更に加熱し、手早く攪拌混和せしめ粘液狀となす。「ポンプ」を用ひて強く攪拌し、石鹸の量を減じ或は代りに各種乳化劑を用ふることあり。	園樹類の介殼蟲驅除に用ひて、特に有效なり。冬季は十倍内外、夏季は三十倍乃至五十倍位に稀釋して撒布す。乳化劑として「アデカ油」「セルトール」等を用ふる方法あり。又「スケルシン」等の濃厚（九〇%位）なる販賣乳劑あり。	硫黄、硫化加里、除蟲菊粉、デリス石鹸
除蟲菊石鹸液	除蟲菊	石鹸 二〇—四〇瓦 水 一〇立	一〇—二〇匁 一斗	石鹸を二—三立の水にて加熱溶解し、火を引きたる後除蟲菊粉を加へて攪拌混合後、暫時放置して水を加ふ。除蟲菊の有效成分を浸出濃縮したるもの「アース」「トミノー」「菊の精」「ネオピスコン」「ピレトゲン」「ピレーー」「ハルク」等と稱し、販賣品多く現れたり。	撒布に際し調製すべし。蚜蟲・青蟲其他一般害蟲驅除に用ひ輕便なり。濃縮販賣品は有效成分（ピレトリン）の含量に應じ石鹸液を用ひ、夫々一百倍或は千倍等に稀釋して使用す。	銅石鹸液、松脂合劑
六簡易（乳劑）	除蟲菊石鹸油	除蟲菊粉 四〇瓦 石鹸 四〇瓦 水 一立	一合 一〇匁 一升	除蟲菊粉を浸出して、前者に準じ調製す。	使用に際し二十倍内外に稀釋して撒布す。調製容易にして有效なり。	前者に準ず
除蟲菊木灰	除蟲菊粉	木灰 一五瓩	二—四斗	乾燥せる木灰に除蟲菊粉を混和し、甕類に入れ一晝夜以上密閉す。	朝夕露のある時に使用して蚜蟲・青蟲等に效果多し。灰は藁灰にて代用することを得。	硫黄、煙草粉、砒酸鉛、砒酸石灰

○病害蟲防除藥劑の調製及使用法

藥劑分類	藥劑名	調合量 メートル法	調合量 慣行量	調製法	使用法及注意	混用可なるもの
殺蟲 接觸	松脂合劑	松脂 二瓩 苛性ソーダ 一・二—二・〇瓦 水 一〇立	一、〇〇〇匁 六〇〇—一、〇〇〇匁 一斗	釜又は石油罐を用意し、先づ苛性ソーダを投じ、熱湯二—三立を注ぎ、ソーダが発熱溶解したる後、細碎せる松脂を徐々に加へ、加熱攪拌して松脂を溶解せしめ、更に湯又は水を加へて所定の全量とす。濃厚褐色の原液を得。	稀釋して介殼蟲類の驅除に用ふ。冬期は十倍内外、夏期は二十五—三十倍とす。又夏期蚜蟲其他の幼蟲類には一百倍位に稀釋して可なり。	硫黄、硫化加里、除蟲菊石鹸液、デリス石鹸、ニコチン酸
	煙草石灰液	煙草粉末 六〇瓦 生石灰 一八〇瓦 水 一〇立	三〇匁 一〇〇匁 一斗	兩者を同時に桶に投じて之に少量宛徐々に水を加へ生石灰を消化せしめ、充分攪拌して乳狀態とし、後水を加へて一〇立とす。生石灰の代りに石鹸或は澱粉五—六〇瓦を用ふるも可なり。	粉末其の儘又は石灰粉を混じ露のある時撒布するも可なり。	石灰硫黄合劑、硫黄、硫化加里、酸鉛、砒酸石灰
	硫酸ニコチン	硫酸ニコチン 一〇—一七瓦（六〇〇倍） 石鹸 五瓦 水 一〇立	五匁—八匁（六〇〇倍） 三四匁 一斗	豫め石鹸を少量の水に煮沸溶解して所定の石鹸水を作り、之に「硫酸ニコチン」普通八百—千倍に稀釋す。	蚜蟲「スリップス」其他一般の害蟲驅除に用ふ。撒布する時成るべく皮膚や衣服に掛からぬ樣、又吸入せざる樣注意し「マスク」等を用ふるを可とす。	ボルドウ液、硫黄、石灰硫黄合劑、硫化加里、除蟲菊石鹸液、デリス石鹸液、松脂合劑

○病害蟲防除藥劑の調製及使用法

藥劑					
毒劑	砒酸鉛	砒酸鉛（粉） 三〇—六〇瓦 生石灰 三〇—六〇瓦 又は大豆展着劑 一〇瓦 水 一〇立	生石灰 一五—三〇匁 又は大豆展着劑 五匁	單に水に混じ又はボルドウ液、亞鉛石灰液或は石灰乳等に混用す。大豆展着劑等を加用する場合は最後に混加すべし。特に亞鉛石灰液と混用すれば單用の場合よりも藥害を起すこと少し。	藥の品質を吟味すること。良く攪拌しつゝ撒布すべし。毒劑なれば特に注意を要す。夏季は作物の種類に依り藥害を來すことあり、生石灰乳、大豆展着劑等の混用は附着力を增し藥害を減少す。	亞鉛石灰液、ボルドウ液、石灰硫黄合劑、除蟲菊木灰煙草石灰、煙草粉、硫酸ニコチン
劑	デリス石鹸	デリス石鹸 三〇—六〇瓦 水 一〇立	一〇—三〇匁 一斗	石鹸を溶解せる少し許りの熱湯に「ネオトン」を投じ、攪拌し、溶解後水を加豫め少量の水にて練りたるものに全量の水を加へ強く攪拌す。尚デリス劑には、以上殺蟲劑の外「デリゲン」「ゲラン」等あり。何れも適宜石鹸液に稀釋して使用す。	葉蟲類（甲蟲）に效果大なり。夏期「赤ダニ」の驅除に用ふ。又デリス劑は、土中の瓜守幼蟲に對し有效なり。	石油乳劑、銅石鹸液、松脂合劑
	デリス粉	カンコウ殺蟲劑類 一〇—二〇瓦 石鹸 二〇—四〇瓦 水 一〇立	五—一〇匁 二—二〇匁 一斗	少量の水に石鹸を煮沸溶解して、之にデリス粉末（カンコウ殺蟲劑、デリニコ等を布袋に入れて揉み出し、其他）全量を一斗とす。	前者に準ず。	同前
	ネオトン	ネオトン（液狀） 六〇—四〇瓦 石鹸 三〇—四〇瓦 水 一〇立	二—三五匁 二—二四匁 一斗		前者に準ず。但し「赤ダニ」には效果少し。更に石灰を加ふるも可なり。	前者に準ず。

藥劑分類	藥劑名	調合量 メートル法	調合量 慣行量	調製法	使用法及注意	
殺蟲 毒劑	砒酸石灰	前者に準ず	前者に準ず	前者に準ず。本劑は一〇—一五倍量の石灰等と混じ粉劑として用ふることあり。	前者に準ず。瓜守・泥負蟲等甲蟲類に有效なるも、蝶蛾類の幼蟲には前者より效力劣る傾向あり。	混用可なるもの
殺蟲 燻劑	二硫化炭素	一千立方尺に對し（約三〇立方米）三—五封度（燻蒸時間三六—四八時間）		五月以後成るべく高溫なる時期を選ぶべし。室の隙間には目貼をなして嚴重に密閉すべし。瓦斯は空氣より重きが故に穀類其他の燻蒸物は成るべく低く平に列ぶべし。蒸發容器は廣口の陶器の類を用ひ、燻蒸物の上部に成るべく多數各所に配置すべし。種子も乾燥充分なるものは發芽を害せられず。瓦斯は引火爆發性なるを以て火氣を近けざる樣、又人畜にも極めて有毒なり、開放の際直ちに中に入るべからず。「アスファルト」の床は瓦斯には作用せざるも藥液により溶解せらる。氣溫低き時は作用せざるも藥量を夫々增加すべし。	燻蒸物の上に古莚を敷き、如露又は噴霧器の類にて撒布するか、下部に隙ある木製桶の下斜に二—三枚の莚を連結し、桶上に横たへたる藥瓶（豫め新聞紙にて卷き置くこと）を破壞するか、靜かに桶中に注入して莚上に浸潤せしむべし。鐵器を腐蝕するが故に注意すべし。引火性はなきも、其他二硫化炭素同樣の注意を要す。	
殺蟲 燻蒸劑	クロウルピクリン	一千立方尺に對し半—一封度（燻蒸時間七〇時間以上）				

年中行事

農作物增收法 終

劑		
劑 青酸瓦斯	一千立方尺に對し（夏）青酸加里又は青酸曹達 二五〇—三〇〇瓦 硫酸 二五〇—三〇〇 cc 水 五七〇—九〇〇 cc（時間 四五分—一時間）	燻蒸室又は天幕にて燻蒸す。容器に水を入れ之に硫酸を注ぎて攪拌し、其後に青酸加里を投入す。成るべく曇天無風の日を選び露の乾きたる後に施行すべし、晴天の日は日覆をなすべし。青酸加里及其瓦斯は極めて有毒なれば取扱を嚴にし、燻蒸中は風下に立寄らざるを要す。青酸石灰（「カルチッド」「サイアノガス」）を用ふる法あり。之は天幕內に適量の青酸石灰を粉碎機にて粉碎撒布すれば、空氣中の水分に依り青酸瓦斯を發生す。
	一千立方尺に對し（冬）青酸加里又は青酸曹達 二五〇—三〇〇瓦 硫酸 二五〇—三〇〇 cc 水 五七〇—九〇〇 cc（時間 一〇分—三〇分）	

昭和十七年四月十一日印刷
昭和十七年四月十五日發行

年中行事 農作物增收法

(停)

正價金貳圓九拾錢

著作者 東京市本郷區森川町七十番地 岩槻信治

發行者 東京市本郷區森川町七十番地 株式會社養賢堂 右代表者 及川伍三治 (日本出版文化協會員番號一三八五〇二)

印刷者 東京市小石川區白山御殿町十八番地 田村良知

印刷所 東京市小石川區白山御殿町十八番地 大文堂合名會社

著作權所有

發行所 東京市本郷區森川町七十番地 振替口座東京二五七〇〇番 株式會社養賢堂

配給元 東京市神田區淡路町二丁目九番地 日本出版配給株式會社

株式會社養賢堂藏書

939
1

終